



祝 大手公民館・中央地区福祉ひろば 開館10周年

大手公民館と中央地区福祉ひろばは14年7月15日に開館して、今年度、開館10周年を迎えました。

中央地区の歴史と伝統を反映した住みよい地域づくりの拠点としての役割を期待して3人の方からお祝いの言葉をいただきました。



花いっぱい花壇コンクール 努力賞受賞



花植えボランティアの皆さん

開館10周年 記念にあたり

町会連合会会長 藤村吉彦

中央地区は平成14年7月、公民館・福祉ひろばが完成し、10周年の記念すべき年を迎えました。思い起こせば松本市の公民館構想からはずれ「Mウイング」を併用することになつて居りましたが、当時の町会長さん方の熱意と努力により現在の場所に建設されることとなりました。更なる10年に向かってさわかかなスタートとなる年にして参りたいとの基本的な姿勢で、役員一同全力をあげて取り組んで参ります。多くの地域の皆様に、前向きで、積極的なご参加、ご協力を頂き、中央地区らしいお祝いのイベントを数多く実施して参ります。

10年という節目にふさわしい記念事業となりますよう心より願っております。

これから、中央地区は次の10年に向けて力強く第一歩を踏み出し、「新たな中央地区のまちづくり」を進めて参ります。

そして、これからの少子高齢化、「健康寿命延伸都市松本」構想と暮らしの安定化を伴ったまちづくりをして参ります。

10年の想い

町内公民館長 遠藤 傳

今から十数年前、幾多の曲折を経て松本市が29地区29館構想を具体的に打ち出しました。

中央地区としての大きな課題は建設用地の確保でした。

中央地区役員の一員としてこの用地探しに苦労したこと

が、つい昨日のことのように思い出されます。現在地が候補地のぼり、いろいろな経過の後、公民館・福祉ひろばの用地として確保されました。この時は、念願がかない役員一同喜びに沸きました。

建設にあたって敷地の発掘調査が行われ、武田信玄以前の旧深志城の堀の跡が見つかりました。この堀跡は埋め戻され建物の下に静かに眠っています。

あの時から10年、大手公民館・中央地区福祉ひろばは今年節目の設立10周年を迎えることになりました。念願の公民館・福祉ひろばが、この地区に出来ているいろいろなサークルが活動をはじめました。民謡会・楽基会・若みどりなど20近いサークルが出来ています。地域住民の交流の場・啓発の場・福祉活動の拠点として地域に密着した公民館・福祉ひろば活動が実施されていくことは喜ばしい限りです。

10周年と

日赤1周年を迎えて

大手公民館長 筒井美保子

大手公民館が中央地区に開設して10周年、多くの皆様に支えられ、地域とともに歩んできた10年になります。

今年度は特別事業を組んでいます。ふれあい祭りには地区出身で、日本を代表するパーカッション奏者平形真希子さんをお呼びしてのコンサートを企画しています。その都度ちらしを配布しますので、ご覧になって大手公民館に足を運んでください。

日赤再結成1年です！

昨年は災害イヤードで、この中央地区でも日赤が7月19日に再結成されて、9月11日には炊き出し訓練を加えた、防災訓練を行いました。

途切れてしまっていた11年間、日赤の再結成は長年の夢でした。町会長の日赤担当遠藤さんが社協に何回も足を運んで、また各町会に、日赤担当の町会役員として選出をお願いして、これも何回も催促しようやく形になりました。幸い良い人選をしていただき好スタートを切りました。

災害を待つわけではありませんが、備えが必要です。備品等揃えながら、訓練も重ねて、安心して住めるまちづくりを、大手公民館10周年に当たり痛感しております。



平成14年新築工事祝賀会

この道ひと筋 ④

エイズ感染予防 山田喜紹さん(鷹匠町)



信州大学医療技術短期大学部名誉教授の山田喜紹さんは、7月2日に感染症予防衛生事業の長野県知事表彰を受けられました。平成2年に文部大臣表彰も受けられています。

山田さんは、信州大学文学部自然科学科を卒業され、信州大学医学部細菌学教室に入局した後、ウイルス学を専門として、信州大学医療技術短期大学部教授を長年務められました。

日本はエイズ感染者・エイズ患者が増加して、一般人の知識が希薄であることを憂慮して学校、企業、警察署等多くの団体に180回の講演を行い、エイズの知識の普及と予防に貢献されました。

受賞に合わせてエイズ感染予防について寄稿していただきました。

「エイズウイルスに感染するな」

今から30年前になりますが1981年にアメリカのロスアンゼルスで5人の同性愛者の男性が、カリニー肺炎で死亡したとCDC(アメリカ疾病予防センター)が報告しました。免疫力が極度に低下したため死亡に到ったのが原因で「後天性免疫不全症候群」という病名がつけられ、この英文の頭文字をとったのが「AIDS」エイズです。

1983年には原因となるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)又はエイズウイルス)が分離されました。このHIVは精液や血液中などに生きて存在するため、性交や輸血などによって感染し、毎日100億のHIVを産生します。これらのHIVは感染者が産生したHIV免疫抗体により無毒化されます。その間8〜10年はほとんど症状がありません。しかしHIVの増加で免疫細胞が減少してゆき免疫力が低下、結果健康人には感染しないような病原体に侵されてエイズが発現して来ます。エイズになると1年で

50%の人が、2年で75%、4〜5年で全員が死亡する不治の病でした。

1996年11回エイズ国際会議(バンクーバー)で発表された多剤併用療法(HAART)を投与することでエイズへの進行を阻止することが

「信玄を訪ねて」

鷹匠町町内公民館長 箕輪徹朗さん

バスが松本インターから甲府に向け走り始めると「私は雨男です。今日のすばらしい天気を見ると皆さんの良い行いが勝ったのですね」松本市文書館小松館長の第一声でした。



甲斐善光寺

今回見学する武田神社、甲斐善光寺、恵林寺について、又信玄と信濃、川中島の戦い、信玄とその家族一族等々について、時にユーモアを交えた話を楽しく聞きながらのバス旅となりました。

武田神社 もとは武田家当主の館として使われ一帯は城下町を形成し、甲斐の政庁で



武田神社 氏滅亡後、政庁は他所へ移り、武田氏館跡は昔を

可能となったのです。しかし残念ながら現在の療法ではHIVを完全に排除も、死滅させることもできません。

山田さんは「エイズ感染予防の出前講座はまだ必要」と引き続き市民向けの啓発運動を続ける意欲を示されました。

ありました。武田氏滅亡後、政庁は他所へ移り、武田氏館跡は昔を



写真は久保田佐久良さん(岡田在住)が、松本城の外堀で撮影。

松本城の野鳥たち ⑬

ゴイサギ

ゴイサギはコウノトリ目サギ科ゴイサギ属に分類されます。夜行性で夜間に松本城上空を飛行するのが見られます。昼間は樹上で休みます。食性は動物食で、水辺を徘徊しながら獲物を捕食します。

恵林寺 境内には本堂、開山堂、赤門(重文)、三門などが並び由緒深い雰囲気を感じさせています。信玄の菩提寺であり、お墓があります。

この寺もその後、織田氏により焼き討ちに会い、徳川氏により再建され今日に至っていると